

久慈市・洋野町におけるバス交通の利用実態と評価の研究

岩手大学 学生員 ○鎌田結花 岩手大学 正会員 南 正昭
岩手大学 学生員 谷本真佑 岩手大学 フェロー 安藤 昭
岩手大学 正会員 赤谷隆一

1. はじめに

規制緩和によるバス事業撤退の事前届出制移行に伴い、地方部を中心としたバス路線の統廃合が見受けられている。岩手県の沿岸北部に位置する久慈市・洋野町では、民間業者によるバス路線が平成 19 年度末に全路線が廃止される意向が示され、今後の公共交通網の維持や住民の日常生活への影響が予想されている。

本研究は、岩手県久慈市・洋野町を対象とした住民の交通実態やバスの社会的重要性の認識に関する調査より、今後の公共交通網のあり方に有用な知見を得ることを目的とする。

2. 研究方法

(1) 研究対象地域について

研究対象地域に設定した久慈市と洋野町の位置関係は、図-1に示されるとおりであり、平成 18 年現在で久慈市は人口 40,533 人、洋野町は 20,530 人を有し、両市町とも高齢化率は 25%前後にのぼる。

当該地域においては、民間業者によるバスが運行されてきたが、近年は路線の段階的な廃止・縮小が行われ、平成 20 年 3 月をもって全路線廃止の方針が表明された。これを受け、自治体の委託運行等による代替バスの運行計画が両市町から示されている。

(2) 調査概要

本研究では、日常の交通実態ならびにバスの社会的重要性の認識に関するアンケート調査を、平成 19 年 10 月 12 日から 10 月 31 日に実施した。アンケート調査表は郵送により配布・回収され、電話帳により当該地区から無作為に抽出された 1500 世帯を対象に、1 世帯あたりに 2 票を配布したところ、828 票の回収が得られた。回答者の個人属性は表-1に示されるとおりである。

(3) 分析方法

本稿ではまず、日常生活における交通行動のうち、「通勤」「通院」「買い物」「人に会う」「通学」「その他の目的」の 6 項目について、それぞれの利用交通手段につい

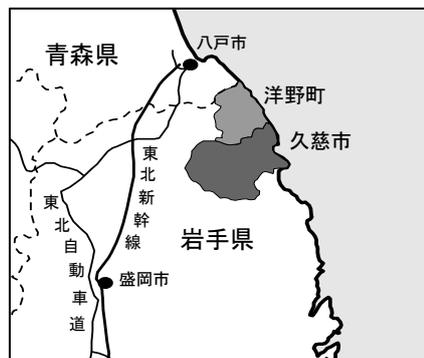


図-1 研究対象地域

表-1 個人属性

(%)	男性	女性
30代以下	3.9	3.9
40代	5.7	6.0
50代	14.0	11.0
60代	16.1	11.1
70代	13.2	8.0
80代以上	4.5	2.6

て明らかにした。

次に、バスの社会的重要性に対する認識について分析を進めた。調査では、「バスがあれば地域の経済活動は活性になると思うか」「バスは地域住民の通勤に役立っていると思うか」「バスは高齢化社会対策に役立っていると思うか」など、計 14 項目にわたりバスの社会的重要性に対する意識を尋ね、最後に「総合的に見てバスは地域社会に貢献していると思うか」の項目を設けた。回答者には、「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「思わない」までの 5 段階評価で、各項目に対し回答をいただいた。本稿では、これらの回答結果を示すとともに、回答傾向の類似した項目の分類を行い、バスの社会的重要性の認識についての構造化を試みた。

3. 分析結果

(1) 地域住民の交通行動

図-2は、日常生活における利用交通手段について、交通行動別にまとめたものである。「通学」以外の目的において、車（自ら運転+家族の送迎）を利用するとの回答が 7~8 割を占め、バス利用との回答は 1 割前後に

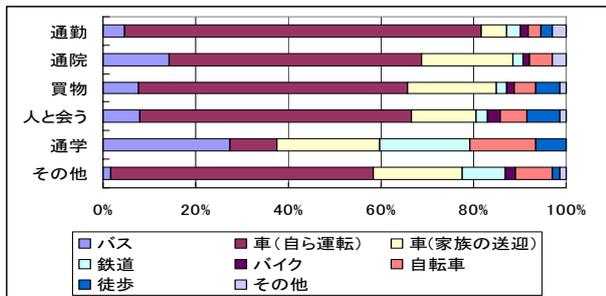


図-2 交通行動別の利用交通手段

止まる結果となった。学生や高齢者など、いわゆる交通弱者の利用が多数を占めるとされる「通学」「通院」では、バス利用の占める割合が他の目的に比して、比較的高い傾向が見られ、「通学」では27.3%、「通院」では14.2%の方がバスを利用するとの回答を示した。

(2) バス交通に対する社会的重要性の認識

バスの社会的重要性について、どのような面で、どの程度認識されているかをたずねたところ、図-3に示される結果が得られた。「地域住民の娯楽・レジャーへの移動」や「業務の移動」では、社会的重要性を認識している(そう思う・ややそう思う)との回答が半数に満たないものの、それ以外の項目では半数以上の方々から社会的重要性を認識しているとの回答が得られ、「高齢化社会対策」「地域住民の通学」「通院」や「総合的に見てバスは地域社会に貢献していると思うか(総合評価)」に対しては、8割以上の方々から社会的重要性を認識しているとの回答を示し、バスの社会的重要性に対する認識の高さが窺える結果が得られた。

(3) 住民の認識に基づいた

バス交通の社会的重要性の分類

バスの社会的重要性に関する各項目について、回答傾向の類似性を基にクラスター分析を適用し、項目の分類を行ったところ、図-4に示す結果が得られた。尚、分析に当たり、図-3に示す全ての項目に回答された方を分析対象とし、得られた回答が「そう思う」「やや思う」を肯定側回答、それ以外を非肯定側回答として回答結果を2水準に集約し、各評価項目間に算出される連関係数を基に分析を進めた。

図-4より、各項目がおおよそ3つに分類されると読み取られ、それらは「環境にやさしい」や「通学」「高齢化社会対策」などが含まれる環境や交通弱者に関するグループ、「買物」「通勤」などの地域住民の日常生活に関するグループ、「地域経済の活性化」や「地域の過疎化の抑止」など、地域振興や活性化に関するグループで

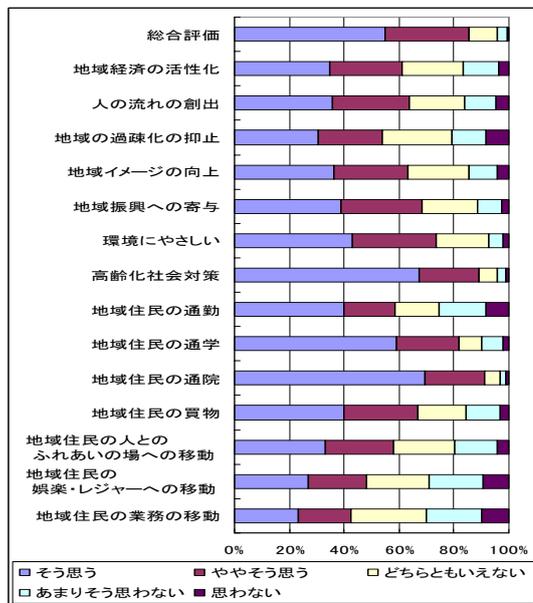


図-3 バス交通の社会的重要性・私的重要性に対する評価



図-4 バス交通に対する社会的重要性の意識分析結果

あると解釈できた。

4. まとめ

本研究では、バス路線網の運行形態に大きな変化が現れている岩手県久慈市・洋野町を対象とし、日常生活における利用交通手段ならびにバスの社会的重要性の認識に関する調査を行った。その結果、当該地域では自動車利用が多数を占めているものの、バスの地域社会に対する貢献についての認識は比較的高いことが明らかにされ、その回答傾向が「交通弱者・環境」「日常生活での交通行動」「地域振興・活性化」の3つに大きく分類できることが示された。

今後は、住民意識をより詳細に分析し、バスの社会的重要性の構成要因について考察するとともに、住民の交通行動や意識との比較を行う予定である。